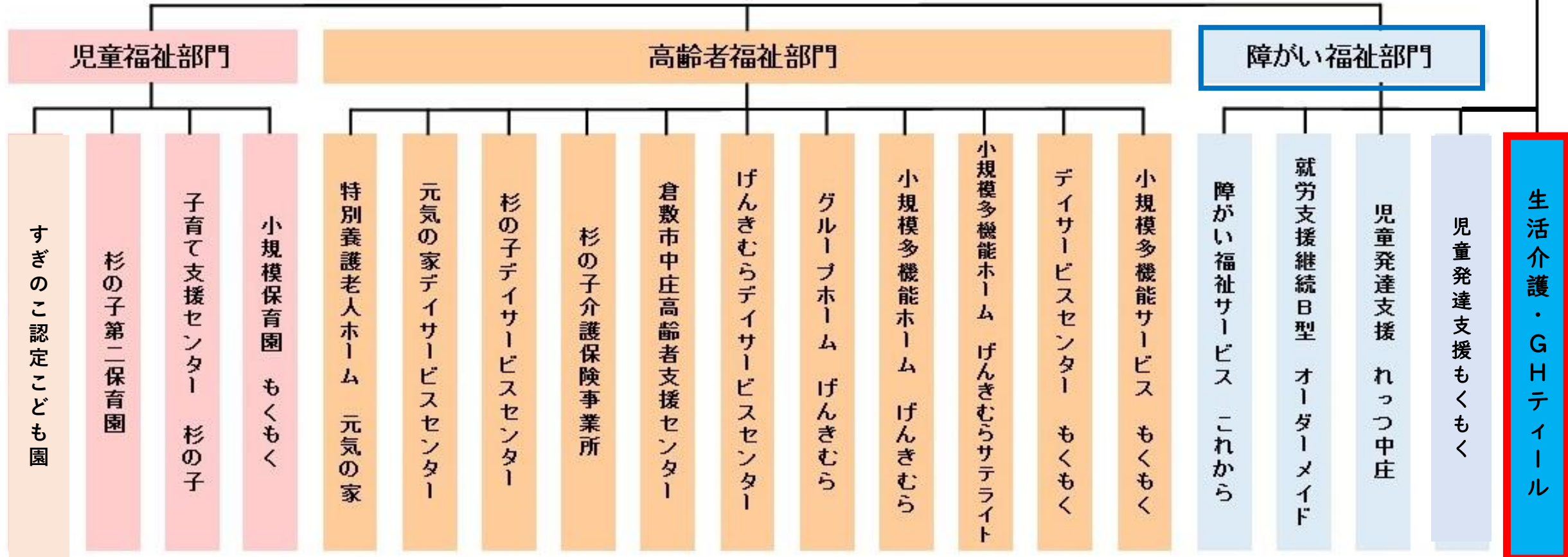


知的障害を伴う自閉症者への支援

社会福祉法人 四ツ葉会
障がい福祉サービス ティール
管理者 赤松基史



社会福祉法人 四ツ葉会 (職員数 350名)



障がい福祉サービス ティール について

①生活介護 定員20名

名称 : 生活介護事業所 ティール

対象者 : 知的障害を伴う自閉症の方

住所 : 倉敷市栗坂328-11

②グループホーム 定員19名(1ユニット4~5名×4ユニット)

名称 : グループホーム ティール

対象者 : 知的障害を伴う自閉症の方 (その他、事情を鑑みて)

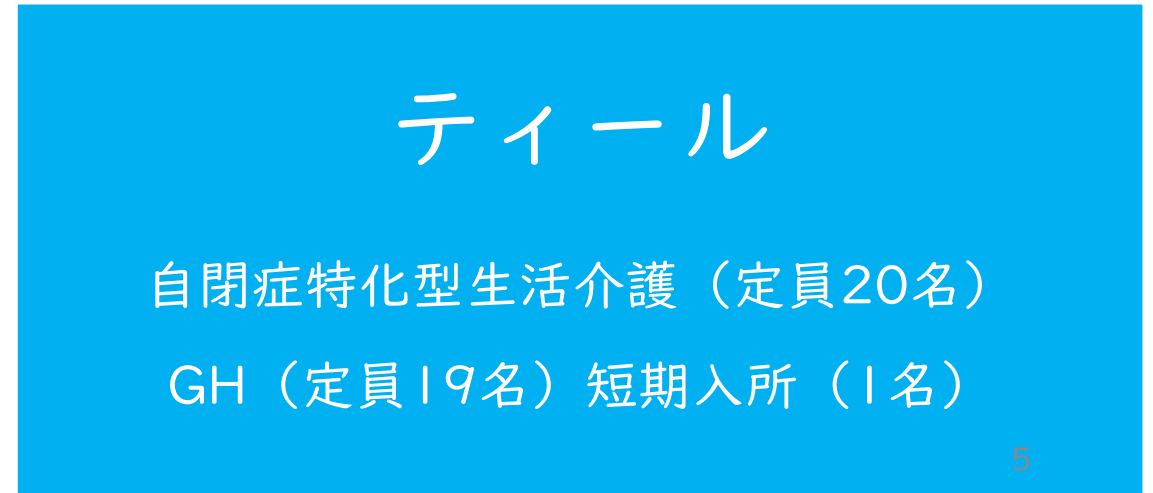
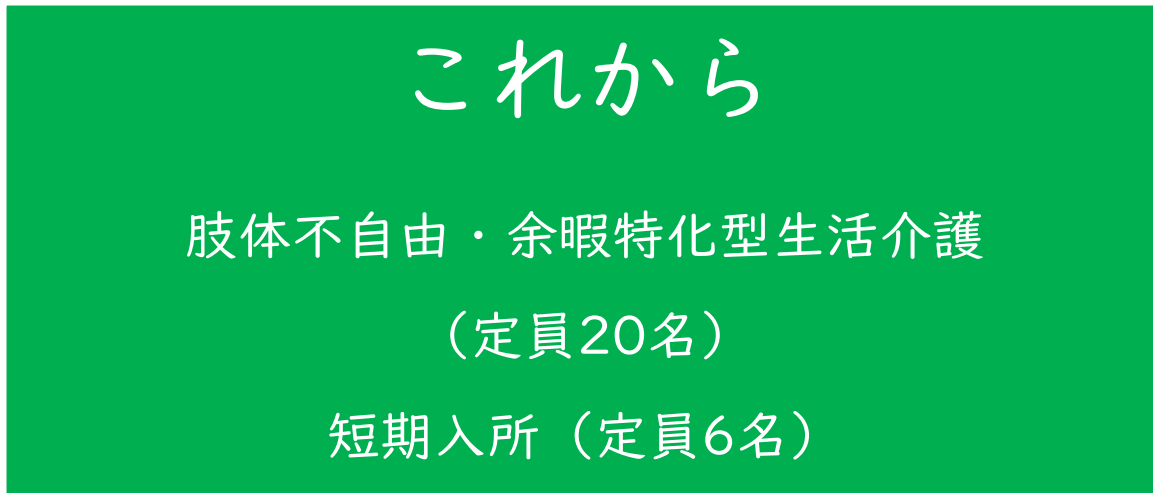
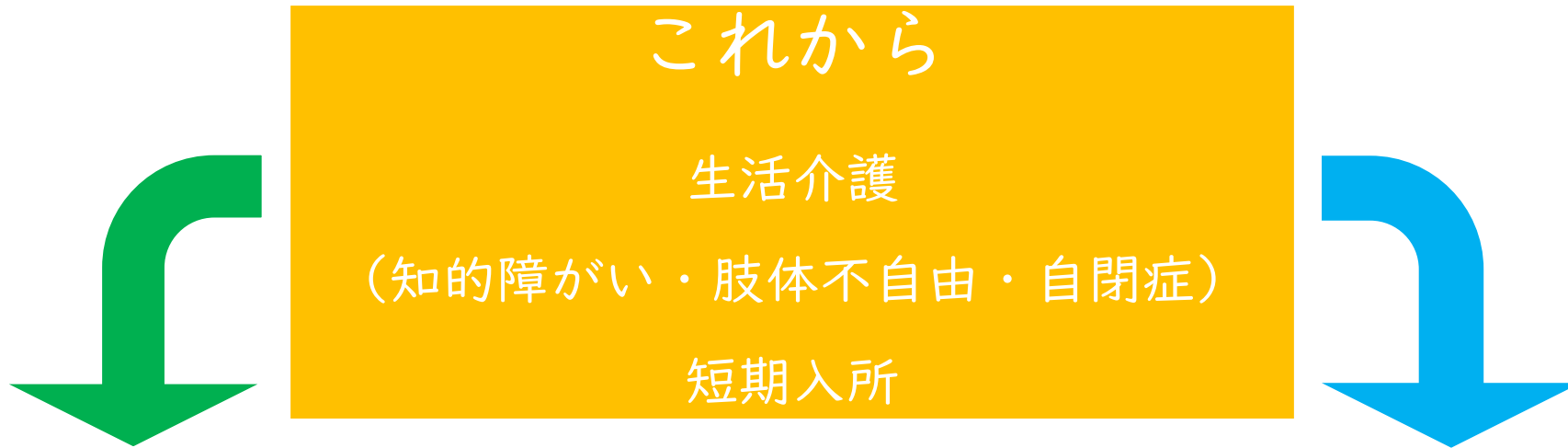
住所 : 倉敷市栗坂328-10

令和2年11月～開所

現在の支援体制に至るまでの経緯

- 当初、利用される方の多くが重度の身体障害や重度心身障害
- 自閉症の方や行動障害の方の利用が増加し、活動に大きく影響
- グループ分けを行い、グループごとで活動する形に(2012~)
- 自閉症の方への支援について、書籍や研修などで学ぶ(2013~)
- 自閉症の方への支援に特化した県外事業所を見学(2013~)
- とりあえず実践してみる(2014~)
- 専門家の方に支援コンサルテーション依頼(2016~)
- **自閉症特化型 障がい福祉サービス ティール 開設(2020.11~)**

生活介護事業の展開



ティール 両事業の特徴

【生活介護・グループホーム 共通】

知的障害を伴う自閉症に特化・個別活動の徹底・支援の軸は自立度向上

【生活介護】

- 集団活動は基本的に設定なし
- 全利用者が個別のスケジュール
- 作業が活動の軸の1つ
- 各利用者に個別環境を設定
- 事務室機能の分散

【グループホーム】

- 日中サービス支援型共同生活援助
(世話人3:1 生活支援員3.3:1)
- 夜勤配置 10:1
- 平均区分 5.4
- 1ユニット少人数制 (5名以内)

ティール 行動障害のある方の利用状況

- 強度行動障害該当者 【生活介護】 12/22名
※6割の方はグループホーム入居者
- // 【グループホーム】 10/19名
- 事業所全体で約6割の利用者が「強度行動障害」認定者

Tさんの事例を通じて

Tさん プロフィール

- 20歳男性・最重度知的障害・自閉症・認定区分5

※強度行動障害の認定は受けていない

- ADL:概ね自立
- コミュニケーション: 表出言語:単語等を用いる事も稀にある
理解言語:なじみのある単語等は理解できる
身体状態:良好

特徴:スケジュールは幼少期から継続して使用し、形は確立している

受け身で、スケジュール上の活動は行うが、負担になっている事もある
負担・不安時は、壁等への体当たり、泣き出す、多動、物叩き等に発展

まずは利用前に行った検査時の様子から

- 令和2年4月利用開始を前に、事前アセスメント(PEP-3)実施

○目的:利用開始時から、本人の特性に合わせた環境作りを行う為

利用当初、当事業所で行ったこと

- 支援学校で行っていた支援の継続を基本として
- 当事業所の環境等に合わせて カスタムして
- 小集団の中に個別の環境を作り
- 自立度向上を目指した支援の展開

Tさん 支援担当者

主担当: 森永 3年目

フォロー: 古谷 8年目

主担当: 澤田 4年目

スケジュール 文字+イラストor写真

- ・確認後、左(黄)から右(青)へ貼り替えていく形



Tさんに必要なのは・・・

- ・その人にとってわかりやすく、集中しやすい環境
- ・自身で活動を理解し、進め、切り替え、終わられ、次に行ける環境
- ・本人の負担を軽減し、発散できる環境
- ・楽しみや興味を持って取り組める活動や環境
- ・安心できる環境

R3.1時点の様子



Tさんへの支援 まとめ

- 利用当初に比べ、自立度が上がり、職員の介入場面も減少した
- 不安定な様子（泣く・物叩き・壁への体当たり等）が減少した
- 生活の質を求める支援実践が進み出してきた

Tさん その後の課題と見通し(検討事項)

- 5月～GH入居

- 入居後の環境設定及び活動内容の構築
(日中活動と生活場面の区別がつく活動を設定)

① 2月～月2回程度、法人内他事業所(これから)SSを利用(計4回)
→目的:GH入居後の環境設定や活動の検討 本人の生活場面観察

② 4月～GH入居時の環境を作り、ティールでSS実施

③ 5月の入居開始時からの自立を目指す

Tさん GHでの様子

今回は時間の関係で紹介できませんが、またの機会でm(__)m

Tさん お母さんの思い

本人はスケジュールなどの視覚的な支援がある事で、卒業後の進路やグループホーム入居などの大きな環境変化にも戸惑い少なく順応できたのだと思う。

入居からある程度期間が経った今は、本人が自立できたことを痛感する。これで安心して本人の将来を見越すことができる。

小学部に入る時、サポートブックを渡し、文字の読み書きをさせてほしいと依頼し、先生方がそれを継続してくれた。これにより、スケジュール提示の仕方が柔軟にできるようになった。

本人は、幼少期からスケジュールなどの視覚的な事に取り組み、小中高の各先生方が継続して工夫しながら行って下さった結果が今なんだと思う。本当に本人にとっていい形を作ることができ、幸運だった。中学部から高等部への引継ぎもしっかりして下さった。

常にスケジュールや視覚的な支援を先生方や支援者の方々が用意して下さったため、そういった事が当たり前の中で生活できていたことがありがたく、本当に感謝している。

本人を成功例のような形として紹介してもらえることも、とても嬉しくありがたいことだと思う

最後に

「気持ちで伝わる・繰り返し伝えてあげないとわからない・厳しくしていかないと…」このようなことは今でもよく聞きます。私もそう思っていました。それは間違いです。事例の方々もしっかりと示してくれています。

お伝えした支援の形を「冷たい・人を物みたいに・寂しい・社会に出たらこんな環境はない」などと言われますが、その視点はどこからのものでしょうか。ご本人やご家族側に立った視点が大切です。私は、本日お伝えした支援の方が「**温かい支援**」だと思います。

本日お伝えした支援の形は、あくまで一例で、ひとりひとり違います。ですが、ひとりひとりの特性に合わせた個別の支援を展開する事は、結果として本人の生活の質を変え、関わる支援者にも好循環をもたらします。これは、自閉症の方への支援に限った話ではないはずです。

だとすると、「**福祉を変える**」在り方だと、私は確信しています。